

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0991000126		
法人名	社会福祉法人京福会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	栃木県大田原市蛭田1795 (電話) 0287-98-8355		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】(平成21年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤5人(うち兼務2人), 非常勤2人, 常勤換算5.77人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	・水道光熱費—15,000円 ・共益費—5,000円 ・理美容代, おむつ代—実費(おこずかいから支払)
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月30日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 京愛会 黒磯病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、週囲を田畑に囲まれ、近隣に小学校がある、静かな環境の中に位置している。棟続きで小規模型デイサービスセンターが併設されている。グループホームとデイサービスセンターの玄関は別々であるが、共用スペースが併用されており、入居者・利用者同士の行き来が自由に出来るようになっている。敷地が広く、のどかな佇まいで利用者、職員もゆったりとした日常生活を送っている様子がうかがえた。管理者、職員は利用者への支援の方向性を探りながら地域との関係を構築していくことに努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の実施は今回が初回である。今後、評価を活かして具体的な改善に取り組みたいと考えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については管理者が作成し、主任職員に提示し最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、入居者代表、入居者家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市の職員がメンバーになっている。2ヶ月に1回公民館で開催している。ほのぼのの現状や取り組み等を報告し、意見をもらってサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月利用料金の支払で家族が訪れた際に状況報告をしたり、要望を伺ったりと口頭でやりとりをしている。重要事項説明書にホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の苦情相談受付窓口を明記している。家族が訪れたときには声をかけ、意見や不満等と言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に加入し、回覧版もまわってきている。地域の花火大会や近隣の公民館等を利用して、餅つきや輪投げなどをしたり、近くの小学校の行事や運動会等に参加したりしている。敷地内のデイサービスセンターの入居者との交流などもある。地域の介護予防教室等に参加したり、ホームのPRをしたりしている。隣近所の方にもお茶を飲みに来てくださいと伝えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者様それぞれの幸福を追求し、ご本人の意思を尊重した介護を目指す。全ての利用者様と職員が共に居心地の良い空間を作り上げていく」ことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催する職員会議の場や日常の支援の中で管理者が職員に確認をしたりして理念の共有・実践に努めている。職員の言葉からは、ホームは入居者と共にある一家族としての生活の場であるので、個人個人の意思を尊重し、常に声かけをしながらの支援を大切にしているとの声が聞かれた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入し、回覧版もまわってきている。地域の花火大会や近隣の公民館等を利用して、餅つきや輪投げなどをしたり、近くの小学校の行事や運動会等に参加したりしている。敷地内のデイサービスセンターの入居者との交流などもある。地域の介護予防教室等に参加したり、ホームのPRをしたりしている。隣近所の方にいつでもお茶を飲みに来てくださいと伝えている。	○	今後も気軽にホームに立ち寄っていただけるような働きかけを続けたり、積極的に地域活動への参加を図っていくことに期待したい。また、地域の方を対象にした学習会を検討しているので、市や関係機関とも協働しながら地域の中で頼られる存在となっていくためにも実施に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施は今回が初回である。今後、評価を活かして具体的な改善に取り組みたいと考えている。自己評価については管理者が作成し、主任職員に提示し最終的に管理者がまとめた。	○	外部評価や自己評価の取り組みを活かしていくためにも、職員間の感じ方、考え方の差異を踏まえて事業所の現在の立ち位置を明確にし、事業所としての理想、何を变えるべきか、何を維持するべきかなど、職員間で話し合いを持ちながら実践につなげていくことに期待したい。

グループホームほのぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者代表、入居者家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市の職員がメンバーになっている。2ヶ月に1回公民館で開催している。ほのぼのの現状や取り組み等を報告し、意見をもらってサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほかに、市の主催する地域密着型サービス部会の会議に出席している。また運営推進会議の会場としている公民館使用に助力をもらうなど連携をはかっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料金の支払で家族が訪れた際に状況報告をしたり、要望を伺ったりと口頭でやりとりをしている。預かり金については金銭出納帳で管理し、家族の来訪の際に確認してもらって確認印をもらっている。職員の異動については必ず報告することとしている。	○	入居者の日常を伝えやすくする手段として、また事業所の考え方を伝えたり職員の紹介をする手段としてホームだよりの作成等の検討を期待したい。また、プライバシーにも配慮しながら外出や行事等の様子を写真などに記録し、アルバムにして家族に見てもらうような機会づくり等にも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の苦情相談受付窓口を明記している。家族が訪れたときには声をかけ、意見や不満等を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。	○	運営推進会議には入居者及び入居者家族の代表に参加してもらっている。代表者以外の家族についても運営推進会議との連携など外部者に意見や要望を表せるような機会づくりを検討していくことに期待したい。また家族会の組織化の可能性を探るなどの検討にも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は開設以来ない。敷地内にあるデイサービスセンター等との交流もあり、職員が異動しても関係がまったく途切れてしまうということがない状況になっている。		

グループホームほのほの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が毎月あり、19:00頃からの時間帯で実施している。外部研修として認知症介護実践研修を受けた職員もあり、今後計画的に全職員に実践研修を受講させたいと考えている。	○	職員の向上心を組織として支えていくためにもすべての職員に学びの機会を定期的につくっていくことを期待したい。また、外部研修を受講した際に報告書の作成や伝達研修を行うなどして、職員個々が得た知識や技術を事業所の資産としていく取り組みにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス部会で他事業所と話し合う機会がある。今後、地域密着型サービス部会での交流等を通して事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいきたいと考えている。	○	ホームや職員の質の向上のためにも、同業者とのネットワークづくりや勉強会、相互評価などを通じて交流や連携を行えるような具体的な取り組みをしていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みや他事業所から紹介があった時は、より良い信頼関係を築き、本人・家族が納得して入居できるよう話し合っている。また、本人に何度か見学に来てもらい、場の雰囲気に馴染んでからの入居になるように配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできること・できないことに配慮しながら、必要であれば一緒に行く様子が見られた。本人の好きなものを見出すよう努めており、畑づくりの際には入居者から生活の技や文化の大切さを教えてもらった。意思疎通がうまくいかない入居者に対しては、ゆっくりと対応している職員の姿勢が見られた。		

グループホームほのぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のなかで入居者の思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は本人や家族から聞いた生活歴などを参考にしたり、日々の行動や表情から本人の思いをくみ取って職員が家族の立場にたって考えたりしながら本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、意見・要望を踏まえて本人がより良く暮らすための介護計画を作成するよう努めている。また、毎月の職員会議での意見等も踏まえて入居者一人ひとりのその時点に沿った個別具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回を目安として介護計画の定期的な見直しをしている。今までに事例はないが、入居者の身体に変化が生じた場合には計画期間によらず随時見直しをすることとしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望・状況に応じた柔軟な支援をしている。また、棟続きのデイサービスセンターとも連携しながら、利用者と家族が安心して暮らし続けていくための多様な支援をしている。		

グループホームほのほの


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に入居者、家族からかかりつけ医や希望する医療機関を確認している。棟続きのデイサービスセンターの看護師の協力を仰ぎながら医療機関との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に入居者、家族、かかりつけ医等と話し合いをしている。緊急マニュアルを作成し、急変時の対応の検討等を行っているが、更に繰り返しの話し合いやチームの連携が必要であると考えている。	○	本人、家族の今後の人生の送り方にも関係してくることも考えられるので、まずは職員間で十分話し合いをもって、現時点での事業所の方針を定めていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	言葉かけや書類管理等、プライバシーの確保に努めている。訪問時にも穏やかに入居者に言葉かけたり、目立たずさりげなく誘導している職員の姿が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、常に入居者が主人公となって暮らせるよう、入居者の希望に沿った生活ができるよう家族と協力しながら支援している。		

グループホームほのぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	必要な支援をしながら、職員1名が検食を兼ねて入居者と一緒に同じ物を食べている。1日おきに食材を購入し、その日の担当者が献立を考えて入居者と一緒に準備等をしている。全員ではないが片付け等も一緒に行っている。外食をする機会もつくっている。	○	入居者と職員が一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりという意味で、検食以外の職員も同じ物を一緒に食べることに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:00～18:00位の時間帯で毎日入浴できるようになっており、冬場の今の時期は1日おきに30分程度の時間をかけて入浴を支援している。希望によって夕食後に入浴をしている方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら活力を引き出す支援に努めている。なかには希望等をうまく表すことができない方もいるが、日々の暮らしの中から利用者個々の役割や、楽しみごとを把握して、全ての利用者楽しく生活を送ってもらうことを今後の課題と考えている。	○	日々の中で利用者一人ひとりの役割、楽しみごと等を把握したり、職員が働きかけたりしながら一人ひとりの入居者が張りのある生活を送れるよう、今後も支援を充実させていくことに期待したい。また、外出支援についても、柔軟な対応に努めている様子が見えるが、より本人本位のものとなるようにしたいと考えているので、更なる充実を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は自由に外に出ることができ、その際には職員がさり気なく見守るようにしている。また、年間計画を立てて、月1回の外食、墓参りなど希望に応じて外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などに鍵をかけていない。敷地が広く、職員のさりげない見守りのもと、入居者の自由な生活を支えている。		

グループホームほのほの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は今年5月頃の実施を検討している。災害時に地域の人々の協力が得られるよう、今後働きかけることを考えている。	○	消防署や消防団の協力を得ながら、定期的な避難訓練を実施していくことに期待したい。また運営推進会議の場で地域との連携について話し合い、協力体制を築いていくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録している。また、必要に応じて体調変化に配慮しながら協力医との連携を図り、適切な栄養や水分が摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木の温もりがあり、家庭的な設備、調度を用いている。共用空間には畳コーナーも設けられている。今後は更に季節感を取り入れた共用空間づくりをしたり、玄関脇に季節の花を置くことなどを検討している。	○	入居者一人ひとりの感覚や価値観を大切に、入居者とも話し合いながら、より一層の季節感や生活感、居心地の良さや安心感を大切にしたい。共用空間づくりをしていくことに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談して、使い馴れた物や好みの物を持ってきている。持ち込みはあまり多くはないが日中は共有空間で過ごしている姿があり思い思いに仲間同士話をしていく姿が見られた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。